© Yanzhang

“太陽のような音楽”を奏でるブルース・リウの みずみずしい演奏に身も心も酔う

こんなにも心が高揚し、愉悦の表情が浮かび、至福のときを過ごせるショパンの演奏がこれまであっただろうか。ブルース・リウの演奏は、陽気でのびやかでスケールが大きい。恩師のダン・タイ・ソンいわく「太陽のような音楽」。その長所が2021年のショパン国際ピアノ・コンクールで聴き手の心に深く浸透する演奏となり、審査員と聴衆の心をとらえた。

「僕のモットーは、常に新しいアイデアを演奏に盛り込み、新鮮さを備えたみずみずしい演奏をすること。楽譜と対峙する際にはインスピレーションを大切に、クリエイティブな演奏を心がけています。いつも同じ演奏をするのではなく、即興性やそのときに感じたものを率直に表現したいのです」

こう語るブルース・リウは素顔もおおらかでユーモア好き。周囲の人々を幸せ色に包む。

アーティストには自身の個性を存分に発揮し、十八番と呼べる作品が存在するが、ブルース・リウはショパン「モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》の『お手をどうぞ』による変奏曲」。ショパン・コンクールでも演奏し、気負わず気取らず自然体の演奏ながら圧巻の表現力と説得力で、聴き手の心をわしづかみにした。私は何度かショパン・コンクールを現地で聴いたことがあるが、この曲を聴いたことはない。その稀有なる選曲でブルース・リウは存在感を発揮し、新たなショパン観を提示した。

現在は「バロック音楽にも興味があり、ハイドンやモーツァルトまでいろんな作品を弾いていきたい」と語る彼だが、今回はラモーとリストが登場。ラモーは前回の来日時に「ぜひ弾きたい!」と意欲を見せていた作品。すでに録音も行っている。ラモーとリスト、またもや斬新な解釈と表現に驚かされるに違いない。

伊熊よし子（音楽ジャーナリスト）

ブルース・リウ（ピアノ）Bruce Liu, Piano

ブルース・リウは2021年の第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで優勝し世界の注目を集めた。

コンクールでの成功後直ちに世界ツアーを開始し、パリのシャンゼリゼ劇場、ウィーンコンツェルトハウス、ブリュッセルのボザール、東京オペラシティ、サラ・サンパウロ、フィルハーモニア管弦楽団との共演でロイヤル・フェスティバル・ホールに出演。またワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とアメリカツアーを行い、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、NHK交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団とも共演。

これまでの特筆すべき出演にはクリーブランド管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、中国NCPA管弦楽団とのアメリカツアーが含まれる。

今後はロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との初共演、モントリオール交響楽団とのヨーロッパツアー、ウィーン交響楽団との学友協会デビュー、さらにラ・ロック・ダンテロン、クラヴィア・フェスティバル・ルール、ラインガウ、エディンバラ、「ショパンと彼のヨーロッパ」、ドゥシニキ、グスタード・メニューインなどの音楽祭出演が予定されている。

ドイツ・グラモフォン専属アーティスト。ショパン・コンクールのライブ録音を収録したファースト・アルバムはフレデリック賞を受賞、グラモフォン誌のクリティックス・チョイスとエディターズ・チョイスのほか、2021年のベスト・クラシックアルバムに選出されるなど国際的に高い評価を受けている。

「私達が共通して持っているものは、私達がみな違っているということです」とこの若きピアニストは言う。中国人の両親のもとパリに生まれモントリオールで育ったブルース（シャオユ）・リウの人生は、常に文化的多様性の中にあった。ヨーロッパの気品、中国の幾千年の伝統、北米のダイナミズムと開放性—それが彼の姿勢、人格、個性を形成してきた。楽観性と笑顔をもって芸術家の道程をたどりながら、リチャード・レイモンドに学び、現在はダン・タイ・ソンに師事している。

＜2023年その他の日本公演スケジュール＞

2/18(土) 広島上野学園ホール
(問) HOME イベントセンター 082-221-7116

2/19(日) 札幌コンサートホール Kitara
(問) オフィス・ワン 011-612-8696

2/25(土) 愛知県芸術劇場コンサートホール
(問) 中京テレビクリエイション 052-588-4477

2/26(日) ザ・ヒロサワ・シティ会館
(問) ザ・ヒロサワ・シティ会館 029-241-1166

3/1(水) ザ・シンフォニーホール
(問) ABC チケットインフォメーション 06-6453-6000

3/2(木) アクロス福岡シンフォニーホール
(問) ヨランダオフィス・チケットセンター 0570-033-337

≪特別割引チケットのお知らせ≫

ジャパン・アーツぴあオンラインチケット及びジャパン・アーツぴあコールセンターで受付。川崎公演は神奈川芸術協会でも受付

◎**シニア割引**：65歳以上の方は、シニア料金（S席¥7,200 A席¥5,900）でお求めいただけます。

◎**車椅子の方**は、本人と付き添いの方1名までが割引になります。必ず事前にご予約ください。（東京公演はジャパン・アーツぴあコールセンターのみ、川崎公演は神奈川芸術協会のみで受付）

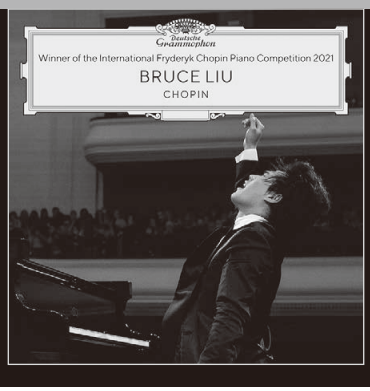
◎ **＜東京公演＞子供文化芸術活動支援事業対象公演** 18歳以下無料
対象：公演当日、小学校1年生～18歳以下
申込方法等詳細はジャパン・アーツホームページの当公演ページにて、12月中旬に発表します。

＜次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さいませ＞

①開演時間に遅れますと長時間ご入場をお待ちいただくことになります。時間には余裕をもってお越しください。②やむを得ない事情により、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合も再発行はできません。紛失等には十分ご注意下さい。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮下さい。なお、就学児以上の方もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全指定席です。指定の座席にてご鑑賞下さい。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑨他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場頂くことがございます。⑩公演実施の可否は新型コロナウイルス感染状況を見極めて慎重に判断させていただきます。

Twitterでフォローする
@japan_arts

祝！ショパン国際コンクール優勝！ ハイ・レヴェルな混戦を制したライジング・スター！



ブルース・リウ

第18回ショパン・コンクール優勝者ライヴ

SHM-CD： UCCG-1890 ￥3,080(税込)

■ドイツ・グラモフォンとショパン・インスティテュートのコラボレーションにより、第1位優勝者、ブルース・リウのコンクールでのライヴ録音。

■ピアノの詩人、フレデリック・ショパンの名を冠した「フレデリック・ショパン国際ピアノ・コンクール」は1927年から続く現存する最古の音楽コンクールで、ショパンの作品のみで競われる最高峰のピアノ・コンクール。5年に一回の開催ですが、2020年に開催予定だった第18回は新型コロナ・ウイルスの影響で1年延期され、参加者は入念な準備で臨むことができたため、非常にハイ・レヴェルなコンクールとなりました。その混戦を制したのがカナダのブルース・リウです。

【収録曲】 フレデリック・ショパン

1・2 アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
3 マズルカ 嬰ト短調 作品33の1（第22番）
4 マズルカ ニ長調 作品33の2（第23番）
5 マズルカ ハ長調 作品33の3（第24番）
6 マズルカ ロ短調 作品33の4（第25番）
7 練習曲 嬰ハ短調 作品10の4（第4番）
8 練習曲 イ短調 作品25の4（第16番）
9 夜想曲 嬰ハ短調 作品27の1（第7番）
10 ワルツ 変イ長調 作品42（第5番）
11 スケルツォ 第4番 ホ長調 作品54
12・19 モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》の「お手をどうぞ」による変奏曲 作品2

ブルース・リウ（ピアノ）
録音：2021年10月 ワルシャワ、ショパン国際ピアノ・コンクールのライヴ録音